

学 校 名	学 年	教 科
四日市市立 内 部 中学校	2 年	保 健 体 育 科(男子)

年間学習計画と評価について

1 学習のねらい等

学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んで運動に取り組み、運動を通して得られる楽しさや喜びを、周りの仲間と共に感じ取れるようにする。そのためにも必要な体力や技能の向上に努める。 ○仲間と共に協力して準備や後片付けを行う。その際、施設や用具の安全等を確かめられるようにする。 ○自分の得意な種目だけでなく、苦手な種目に対しても『どうしたらできるようになるか。』等、課題を見つけ解決を目指した学習の工夫をする。 ○種目についてルール等を学習し、それを生かして公正な態度で授業に取り組むことができる。 ○個人の健康や安全に関心を持ち、それを実現するために自ら進んで学習に取り組もうとする。 ○心身の機能の発達について、役に立つ基礎的な内容を理解し、知識として身に付ける。 ○知識として身に付けた事柄を、日常生活の中で生かすことができる。
使用教材	教科書：保健体育(大修館書店) 補助教材：補助教材：図解中学体育(あかつき)、中学保健体育ノート(大修館書店)

2 評価の観点および方法

評 価 の 観 点	評 価 の 方 法	
① 運動や健康・安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また公正、協力、責任等の態度を身につけると共に、健康・安全に留意して運動しようとする。 ・自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実現するため、進んで学習に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 (行動観察・発言内容聞き取り) ・学習カードの記入内容 (作成状況の確認)(自己評価等の記入) ・定期テスト (関連問題への解答)
② 運動や健康・安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動方法を考え工夫している。 ・自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 (行動観察・発言内容聞き取り) ・学習カードの記入内容 (記入状況の確認)(自己評価等の記入)
③ 運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題解決を目指して運動を行うと共に、運動の特性に応じた技能を身につけている。また、自己の体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 (行動観察) ・実技テスト
④ 運動や健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性と学び方、安全の確保、生活における運動の意義、体ほぐし、体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。 ・健康や安全の意義を理解すると共に、心身の機能の発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 (行動観察・発言内容聞き取り) ・学習カードの記入内容 (記入状況の確認) ・定期テスト (関連問題への解答)

3 学習計画

	各単元と主な学習内容	観点別評価の具体例
一 学 期	※体育分野 ○ 体づくり運動 ・集団行動 ・ラジオ体操 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・動きを高める運動 ○新体力テスト	体育分野の以下にあげる①, ②, ④については各単元で共通とする。 ①各種目の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。互いに協力して安全に練習や競技をすることができる。 ②自分の能力に応じた課題を持ち、練習の仕方を工夫している。 ③自他の心身の健康や安全に関する課題に対して適切に判断している。 ④体力を高める運動の正しい動作を身につけたり、体力を合理的に高めるための運動ができる。 ⑤各種目の特性や技能の構造を理解し、練習の仕方やルールを知っている。 ⑥ラジオ体操第1の順番を理解し、スムーズに取り組むことができる。 ⑦新体力テストでは、自己の体力の現状を正しく知ることができる。自分に適し

	<ul style="list-style-type: none"> ○陸上競技 <ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳び ・走り幅跳び ○バレーボール ○水泳 <ul style="list-style-type: none"> ・クロール ・平泳ぎ <p>※ 保健分野</p> <p>○第2章 「健康と環境」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化への体の適応 ・快適で能率のよい環境 ・衛生的な飲料水の供給 ・空気の汚染と換気 ・し尿とごみの処理 ・私たちの生活と環境問題 	<p>た運動種目の選択や効果的な運動のしかた、体力をバランスよく高める、同年代の他の人との比較などに活用することができる。結果は、将来へ向けての生涯スポーツの実践や基礎づくりにも効果的に生かすことができる。</p> <p>⑧バレーボールではオーバーハンドパスとアンダーハンドパス、アンダーハンドサーブができる。その技能を応用しゲームができる。</p> <p>⑨走り高跳びではベリールール、走り幅跳びではそりとびの正しいフォームを身につけて記録を向上させることができる。</p> <p>⑩水泳ではクロールと平泳ぎの泳法で、25m以上を泳ぐことができる。</p> <p>①健康と環境の関わりについて、自分の日常生活を振り返えろうとしている。</p> <p>②健康と環境について学習したことを日常生活に当てはめることができる。</p> <p>③身体には環境に対する適応能力があることを知っている。</p> <p>④生命維持や健康に密接な関りのある空気や飲料水の条件について知っている。</p>
二 学 期	<p>※体育分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育祭に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・種目練習等 ○器械運動 ○陸上競技 <ul style="list-style-type: none"> ・長距離走 ○球技 <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール ・サッカー <p>※保健分野</p> <p>○第3章 「けがの防止」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがの原因と防止 ・交通事故によるけがの防止 ・犯罪被害の防止 ・自然災害への備えと避難 ・応急手当の基本 ・けがの応急手当 ・心肺蘇生法 	<p>①体育祭の取り組みでは、集団の力を結集して記録を向上させている。</p> <p>②跳び箱運動では、回転系、切りかえし系の技を大きな動作で行い、安定した着地ができる。</p> <p>③長距離走の正しいフォームを身につけて、記録を向上させることができる。</p> <p>④ソフトボールでは、正しいフォームでキャッチボールやバットスイングをすることができゲームの中で実践できる。</p> <p>⑤サッカーでは狙ったところにパスやシュートができる。また周囲の状況を判断して、空いたスペースに走りこんでパスを呼んだり、シュートをしたりすることができる。リフティングを続けることができる。</p> <p>①交通事故の発生要因やその防止策、応急手当について関心を持ち意欲的に学習しようとしている。</p> <p>②交通事故の発生要因、応急手当について、選択すべき行動を判断することができる。</p> <p>③交通事故の発生要因、防止策、応急手当の意義と方法を知っている。</p>
三 学 期	<p>※体育分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バスケットボール ○柔道 ○ダンス <p>※ 保健分野</p>	<p>①バスケットボールでは、パスやドリブルの技能を応用し、ゲームの中で発揮することができる。</p> <p>②柔道では、礼法と受身が正しくできる。</p> <p>③ダンスではリズムにのり「アップ」や「ダウン」でリズムをとって踊ることができる。また曲からイメージし、創作することができる。</p> <p>2学期の保健分野の続きを行う。</p>

4 学習方法についてのアドバイス

学習方法	学 校	<p>①体育分野での準備体操はとても大切です。協力しながら真面目に元気よく取り組もう。</p> <p>②体育分野では安全に取り組んでいくためにも、まずはしっかりと指示(話)を聞けるようにしましょう。そして苦手な種目、得意な種目に関係なく前向きに取り組み努力していこう。</p>
	家 庭	<p>①体育分野での目標の一つに、自己の体力の向上があります。自宅でできるトレーニング等をやってみよう。(ただし、事故やけがにつながる場合があります。行う際には、保護者の方と相談して、許可を得てから行いましょう。)</p> <p>②次に取り組むところの予習として、教科書や副教材を読んでおこう。(図解中学体育や保健の教科書・学習ノートなどを積極的に活用しよう。)</p>